

広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 28 年 2 月 4 日		
所 属 学 部 ・ 研 究 科	文学 学部／研究科	1 年次（留学開始時点）		
留 学 先 大 学	ネバダ大学（国名：アメリカ）			
所 属 学 部 ・ 学 科 等 名	Intensive English Language Center			
在 籍 身 分	交換留学生			
留 学 期 間	平成 27 年 8 月 24 日～平成 27 年 12 月 11 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類：F-1			
	ビザ申請先：アメリカ大使館（大阪）			
	取得方法、提出書類：通帳の残高証明書、成績証明書、I-20、パスポート、ビザ申し込みの際に入力したもの、面接予約表、SEVIS の支払い証明書			
	手続きに要した日数：1 ヶ月程度			
その他必要な事前手続き	事前に面接の予約をとる			
出国年月日	平成 27 年 8 月 14 日			
経 路	関西国際空港—仁川空港（韓国）—シアトル—リノ国際空港			
現 地 で の 出 迎 え	☒ 有（・大学関係者 ・ <u>その他</u> ） ☐ 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	2 日間留学生に必要なものの案内（口座開設の案内、キャンパスツアー、クラブの紹介など）や、他校からきた留学生との交流会			
帰 国 年 月 日	平成 27 年 12 月 27 日			
経 路	サンフランシスコ—羽田空港			
2. 留学経費について				
所要経費	総額	939890	円	
	内訳	渡航費	290000	円
		保険料	49890	円
		教科書代(学費)	20000	円
		宿舍費	180000	円
		食費	100000	円
		その他（ 旅行費）	200000	円
	（ 雑費）	100000	円	
	（ 費）		円	
3. 授業について				
27 年 秋学期	8 月 24 日	～	12 月 11 日	

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	Reading / Writing Listening / Speaking Integrated
単位互換希望の有無	☐ 有 ☐ 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	アカデミックにチャレンジするべきです。

4. 生活等について

(1) 留学先の住居について

住居の種類	☐ 大学の寮 ☐ アパート ☐ ホームステイ ☐ その他 (インターナショナルハウス)		
住居の広さ	約 100 m ²	同居人の有無	☐ 有 (9 人) ☐ 無
住居に附属する設備	☐ 電気 ☐ ガス ☐ 水道 ☐ 給湯 ☐ シャワー ☐ 風呂 ☐ 水洗便所 ☐ 暖房 ☐ 冷房 ☐ 台所 ☐ 食堂 ☐ 固定電話 ☐ インターネット ☐ その他 ()		
住居費	1ヶ月当たり 400 ドル (現地通貨)	約	42000 円
住居を決定した方法	☐ 留学先大学の紹介 ☐ 友人・知人の紹介 ☐ 不動産業者 ☐ その他 ()		
留学先での住居全般に関するアドバイス	事前に大学付近の治安を確認するべきです。		

(2) 医療について

1 日以上入院を要する病気・怪我等を	☐ した ☐ しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	☐ 掛けた ☐ 掛けなかった
掛けた場合	☐ 日本 ☐ 留学先国 ☐ その他 ()
掛け金は	年間 49890 円 補償額 死亡 10,000,000 円, 入院 1 日 円 その他 ()
留学前後での予防接種の必要の有無	☐ 有 ☐ 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	三種混合, MR 費用は明確には覚えていません。西条中央のときわクリニックさんにお世話になりました。
日常的な健康について不安が	☐ あった ☐ なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	歯科には保険がかからないため非常に医療費が高いです。 学内の健康センターが非常に充実しているため利用するべきです。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	食べ物が非常に重いため、気をつける必要があります。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
大学の近く、家の近くがカジノ街のため夜遅くに散歩することがないようにしました。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
食べ物が重いため、自炊できるときはしたほうがよいと思います。スーパーは学校の近くにはないので、バスを利用したり車を持っている人に頼んだりするべきです。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 29 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 29 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	☐ 4 年次に留学したため ☐ 単位不足のため ☐ 新卒で卒業するため ☐ その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	現在は大学院の 1 年生で卒業後は教員希望です。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	留学前に単位をとれるだけとったほうがよいと思います。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
日本の大学ほど大学のオフィスの対応がよくない場合があります。また、理解していないと必要のないお金を払ったりする恐れもあるため会話パートナーに助けてもらったりするなどしたほうがよいと思います。		

学習の概要に関するレポート

このたび HUSA プログラムのなかの USAC のプログラムでネバダ大学リノ校にお世話になりました。USAC のプログラムは英語に必要な基本的な 4 つの能力（リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング）をのばすという点において非常に長けたものがありました。また、オリエンテーションの際にテストをうけ、クラスが能力ごとに 4 つにわけられるのですが、上 2 つのクラスは **Integrated** といってそれぞれが興味あるクラスを選択し、そのクラスに応じた英語を学ぶクラスというものもありました。なので、ビジネスのクラスをとった人などはビジネス現場で使うことができるような英語を学習しており、基礎基本の能力のみではなくこれからの将来に役立つような英語を学習することもできました。またクラスのみではなく、会話パートナーや自分たちが英語を使うことができるような場面も学校側が積極的に提供してくれました。これらの点がこのたびの留学で学習面において充実していましたが、特にクラスでの学習が非常に充実していました。

クラスはわたしは上から二番目のクラスだったのですが、半分が日本人のクラスでした。しかし、ほかのクラスは半数以上が日本人のクラスもあり、時期的に日本人が多いためどのクラスにも日本人が多数在籍していました。わたしのクラスでは日本人同士でも英語を使うということを守り、日常生活の中でも日本語を使わず英語を使って会話をしていました。リーディング・ライティングのクラスは小説を読んで登場人物の心情などを議論したり、エッセイをひとつの学期のなかで多数書き、先生に添削してもらい自らの英語表現の間違っているところをなおしたりすることなどをしました。また、先生のみならずクラスでお互いのエッセイを交換し添削しあうなどもしました。能力がついたかどうかを確かめるために毎週時間を決めてひとつのお題について書いたりなどしました。また、スピーキング・リスニングのクラスではプレゼンテーションを定期的にし、最終的には原稿も見ることなく、スライドの変わる時間も自分で設定するなどして『読む』プレゼンテーションをするのではなく、『伝える』プレゼンテーションをするということを重視して行いました。このスピーキング・リスニングのクラスでは積極的な発言が求められ自発性も重視されました。英語のみならず自分が疑問に思ったことなどをそのままにせず発言するということを学ぶことができました。

このようなクラスの英語の学習はわたし自身の英語の能力をたかめるだけではなく自分自身の自発性を高めることができたと思います。いままで自分が知らなかったエッセイの書き方など知らなかったこともたくさん学ぶことのできた実りのある留学だったと思います。わたしは将来教員志望ですが、この度の留学で習得することができた知識を将来活かしていきたいです。

生活の概要に関するレポート

このたび HUSA プログラムのなかの USAC プログラムでネバダ大学リノ校にお世話になりました。アメリカに滞在しているあいだは大学から歩いて 10～15 分ほどのインターナショナルハウスに住んでいました。わたしが住んでいたインターナショナルハウスは男女共同のインターナショナルハウスで女性はわたしを含めて 4 人、男性は 6 人住んでいました。そのインターナショナルハウスを運営しているグループはほかにも 4 つほどインターナショナルハウスを運営しており、ほかのインターナショナルハウスは全て男子専用や女子専用となっていました。スーパーが大学の近くにないのでお世話になったグループの方々が日常生活に足りないものがあると定期的にスーパーへ連れていってくれました。日常生活で特に感じたことを学校内とそれ以外の場所でわけてふたつ述べたいと思います。

学校内の日常生活は非常に充実したものでありました。まず、学校が始まった当初から会話パートナーをつけてもらい、お互いの時間があうときは週 2～3 回会い、日常生活についての会話をしました。またわたしの会話パートナーは日本にすごく興味をもっており、大学でも日本語の授業を履修していたため日本語を教えたり課題を手伝ったりなどもしました。また、わたしが行った大学は特に日本の文化に興味がある人が多く、交換留学できた日本人のために数多く行事が開催されました。特に印象に残ったものはスポーツ大会やたこやきパーティー、またハロウィンパーティーなどです。交換留学できた日本人に対して非常に優しく親切に、大学にはやく馴染めるようにするために協力してくれました。このような学内の方々の協力で大学にスムーズに馴染むことができました。このような行事にも積極的に参加していくことが大切だと思います。

また、学校外の日常生活ではやはりインターナショナルハウスの協力が非常に大きかったです。前述したようにスーパーにつれていってくれたり、また様々な行事を開催してほかの留学生と交流できる場を設けてくれました。また、アメリカはキリスト教の文化がある国で教会への参拝などもあるので参加して体験するのも大切だと思います。日曜日の夜にはサンデーディナーといって夕飯を提供してくださるような定期的な行事もあり留学生に対する心遣いや思いやりなどを強く感じました。このような行事にも積極的に参加することによって現地の方々や普段交流することのできない留学生とも交流することができました。

以上の二点からもわかるように、行事には積極的に参加していくことが非常に大切だと思います。普段交流できないような方々とも交流することができる場が身近な場所にたくさんあるのでその機会を無駄にしないことが大切だと感じました。また、アメリカという国は日本人留学生が非常に多い国であるように思いますし、日本の文化が非常に浸透している国であるため馴染むことは比較的簡単な国であるように思いました。しかし、だからといって日本語を使って会話をすれば留学の意味はないので自分の意識を常に高くおいておくことが大切であると感じました。